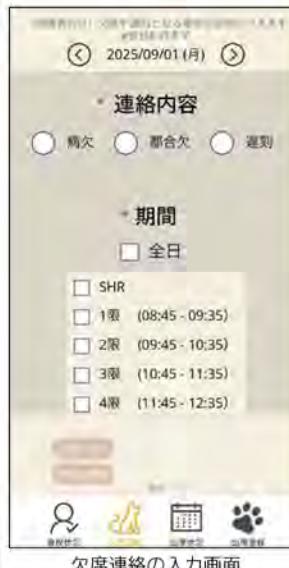


特集

「neconomie」 本格始動 システム開発の裏側と今後に迫る



朝の混乱を解消
全生徒の同時登録にも対応

本校と三谷産業株式会社のチームが共同で研究・開発した出欠管理システム「neconomie」が本年度から本校全体での本格稼働を開始した。保護者による生徒の欠席連絡・生徒による授業への出席登録・そして教職員による生徒の出欠の記録を一元化し、生徒の出欠管理を効率化する。

朝の混乱を解消
全生徒の同時登録にも対応

本校と三谷産業株式会社のチームが共同で研究・開発した出欠管理システム「neconomie」が本年度から本校全体での本格稼働を開始した。保護者による生徒の欠席連絡・生徒による授業への出席登録・そして教職員による生徒の出欠の記録を一元化し、生徒の出欠管理を効率化する。

出欠管理を効率化

出席状況をクラウドで一元管理

教員の仕事は、私たち生徒から直接見える部分である授業やその準備の他にも様々ある。成績管理、教育課程編成、指導要録管理、保健関係事務、各種報告書の作成など、これらの仕事はまとめて「校務」と呼ばれる。近年、小・中・高等・特別支援学校教育の校務の課題に対し、システム化による解決の試みがなされている。本特集では、校務のうち「出欠管理」についての課題を解決するため、本校と三谷産業が共同で研究・開発した出欠管理システム「neconomie」について、開発に携わった先生方を中心に取材し、これから教育現場での出欠管理のあり方を考える。

(文 東出尚己)

金大附高新聞

発行所
新聞編集局
金沢大学附属高等学校
生徒会内
金沢市平和町1-1-15
編集局長:廣田 葉史
編集局次長:山本 耀史
印刷所
株式会社栄光プリント
金沢市神宮寺3-4-17

1・2・3面	neconomie
4・5面	部活動
6・7面	生徒会活動
8面	ソイソフクリーム
9面	特別支援教育
10・11面	探究活動
12・13面	新任教員
14面	応援披露
15面	野球部・フェンシング
16面	活動の記録



教室に設置されたneconomie関連設備

の欠席状況を一覧で確認でき、情報伝達のために早朝出勤する必要なくなった。シス

トフォン等で教室内に貼られたQRコードを読み取る、そして設置タブレット等の端末を通じてリアルタイムで把握することが可能。また、同じ画面上で保護者から欠席連絡があつた生徒の情報も同時に確認できる。そのため、目前の生徒の情報が即座に入力され、校内ネットワークを経由してクラウド上に転送される。担任や授業担当教員が、担当する状況においても正確な出席登録ができる。教員の手作業による名簿を記入から大きく進化しており、複数の方法で生徒自身が自らの出席を記録できるシステムが導入された。登録方法は、ICチップが内蔵された生徒証を教室の入り口の

授業前の出席確認は、従来の方

法である教員の手作業による名簿を記入から大きく進化しており、複

数の方法で生徒自身が自らの出席

を記録できるシステムが導入され

た。登録方法は、ICチップが内

蔵された生徒証を教室の入り口の

授業前の出席確認は、従来の方

法である教員の手作業による名簿を記入から大きく進化しており、複

数の方法で生徒自身が自らの出席

を記録できるシステムが導入され

た。登録方法は、ICチップが内



生物室前に設置されたICタグ読み取り機器

幼稚園バスでの事故がきっかけ

研究が始まったきっかけを教えてください。
斎藤 数年前の夏、幼稚園児がバスに置き去りにされて亡くなる事故が続いて、ヒューマンエラーはシステムで防ぐべきだと思ったのがきっかけなんです。子どもの行動を逐一管理するんじゃなくて、そこにいるかうかだけを把握できればいい、と。その話を当時の中澤校長にしたら、本校の生徒にも応用できるよね、と言われました。遠くから通う生徒もいたので、登校途中に倒れてしまうことだってあります。でも先生の人数は足りないし、特に気を配らなきやいけない生徒が数人いたらもう崩壊するんです。だからまず、生徒からのSOSにいち早く気づけ

る仕組みが必要だと思いました。

そういう安全管理をシステムで実現できないかという発想で、研究がスタートしたんです。もちろん個人の思いつきで外部企業と組むわけにはいないので、研究として進めつつ、今は忙しい中で研究費を申請しているところです。もちろん構想は幼稚園から始まってきました。じやあグーグルアカウントでやり直すかつて案はあつたんで、すけど、すでに三谷産業に365学でプレゼンしても却下されました。じやあドリーハードウェアを

が特殊で、ワードやエクセルみたのがアプリしか使えないんだで、それが原因で、何度もかみ合つたんですけど、大学であります。でも金大の契約

導入後の思い語る「苦労の連続だった」

斎藤瑞紀先生インタビュー

1年ほどかかりましたね。

導入後、現在における課題

今残ってる課題はいくつかあります。1つはプログラムのテストアカウントでプログラムを作つてもらつたので、それも難しくて。じやあ本校で独自にマイクロソフト365のアカウントを買おうってなつたですが、それはコスト的に無理だった。いろいろ調べた結果、教育機関向けのソフトを使つたんですね。2年ぐらい運用して、それで役所に説明だつたんです。それを使って、ドメインが必要を取得して、生徒用アカウントを作つて、マイクロソフトに申請して、ようやく教育ライセンスを取得できました。ここまで約

は解決できません。もう折るしか

ない。もう1つは、読み取り機の問題。本当はカードリーダーでやっているんですけど、ダメなんですね。中いろんなハブを挿む理由です。

教員からの意見はどんなもの

ありますか。
斎藤 残念があつたのは、生徒の出入りで、各教室に置こうとした全体で1000万円を超えるやつは1台50万円から200万円くらいで、各教室に置こうとした全体で1000万円を超える。そんなお金は出せないし、保

持つ

施設で管理しているので、たとえ数字で管理しているので、たとえ関係部分を指摘されました。N

がありますか。

斎藤 大学側からは、個人情報に関する部分を指摘されました。N

がありますか。

斎藤 大学側からは、個人情報に関する部分を指摘されました。N

ありますか。

斎藤 そうですね。最初のお金が出

ます。

斎藤 そのシステム構造で大学か

か、いろんなところに広がつてい

ます。

斎藤 これが今、日本の教育現場だと思います。だから、今はまだ

止まつ

っています。バグが多いとか、IDを忘れてしまったとか、タップが完全できないとか、改善

されています。

斎藤 それでも、費用面が解決したとした

のです。

斎藤 これが今、日本の教育現場だと思います。だから、今はまだ

止まつ

っています。

斎藤 これが今、日本の教育現場だと思います。だから、今はまだ

止まつ

ています。

斎藤 これが今、日本の教育現場だと思います。だから、今はまだ

<p

部活動に未来はあるのか

(参考資料)土日の休業日を設定している学校の割合
(出典:運動部活動の現状について 平成29年5月 スポーツ庁)



教員の働き方改革と部活動
用が多く、顧問である教員の地域
離せない部活動の形が変わろうと
していける今、最適解を模索する
日々が続いている。

部活動は、一説によると明治から始まつたとも言われている。私たちの学校生活とは簡単には切り離せない部活動の形が変わろうとしている今、最適解を模索する日々が続いている。

全国的に問題視されている部活動のデメリットとして、休日の使用が多く、顧問である教員の地域移行である。

</div

日番制度始動

生徒や先生への影響は

人員不足も限界に

本校では、本年度から「日番制度」が始まった。日番制度の影響を受けている生徒、受けない生徒、そもそもこの制度についてよく知らない生徒など様々だろう。本記事では、生徒部主任の眞木啓生先生に取材を行い、制度の概要や現状について伺った。

（文責）山本 安藤 中西

日番制度は、生徒の登校すべき日、かつ、部活動ができる期間に適用される制度で、必ずしも各部活動に先生がいる必要はなく、先生方が日替わりで見回りや緊急時対応等を行なうというものである。ただし、土曜日や日曜日、夏休みなどは、今まで通り顧問が部活動を見ることになっている。あくまでもこの制度の目的は、より広く生徒の活動を認めることである。

昨年度では、すべての部活動にそれぞれ顧問が張り付く、という形が前提であった。しかし、この場合、担任の先生が生徒との面談を行うことができなかつたり、そもそも先生の数が足りない、といつた課題があり、現実的にはなかつた。そこで、先生方の中での別々の形態に変えよう」という意見が上がり、発案に至った。また、昨年度本校の校長であつた南波聰校長が「生徒の安全は守らないといけないけれど、先生たちの働きやすい形を先生ら自身で考えてほしい」といった旨を職員会議で伝え、顧問会議を重ね、議論を続けた結果、日番制度が始まった。

眞木先生は、以前から本校のシステムに疑問を抱いていたといふ。「昼休みに体育館で遊んでいられるのがOKで、放課後、体育館でドサッカーや野球をするのがOKで、隣の敷地内で運動しているだけなのに、部活はダメっていうのは不自然だよね。もちろん、部活は学校がお金を出しているとか、条件が

全部締めではないから、先生方が責任を持たないといけない部分はあるのは分かるけどね。だから、その不自然をなくすために、SCHOOL活動や探究活動もそ

うだし、学校でみんながやりたいことをより簡単にできる環境を作ればいいじゃんっていうのが今の日番制度につながっているんじゃないかな」と眞木先生は話してくださいました。

（文責）山本 安藤 中西

年と変化を感じないあるいは「とてもよくなった」と回答した。

た。結果は約97.2%の生徒が「昨

年と変化を感じない」あるいは「とてもよくなった」と回答した。

た。結果は約97.2%の生徒

